

佐藤 和樹 日々の臨床から得た経験とその活用法

～技工歴13年から伝えられること～

私は歯科技工を続けて13年が経ちました。その間に技工に対して取り組む姿勢や考え方も変化し、それに伴って働く環境を変えてきました。またその逆で、職場の変化から影響を受け自身が変化したこともあります。

任された仕事に対して、今までの経験や知識を生かすことはもちろんですが、そこにどのように考えて製作しているのかが重要であり、たとえ間違ったやり方でも、その取り組む姿勢こそが次への成長に繋がると思っております。それはつまり、同じようなケースを製作した場合でも5年目と10年目では全くの別物になっているということだと思います。

今回は私の歯科技工の経験から、作業の進め方や気をつけている点、知っていると思われることなど、一日の仕事の流れを含めお話しさせていただきます。

- 【略 歴】** 2000年 東邦歯科医療専門学校卒業
2000年 (有)共立歯研入社
2008年 マスターセラミストスクール卒業
2009年 (株)シーディーシー 入社



横田 真也 若手歯科技工士・学生へ伝えたいこと

昨今、歯科技工を取り扱う雑誌は審美歯科について数多く掲載されています。確かに審美もとても大切なことだと思いますが、それだけでもいけないと思われる方は多いのではないのでしょうか？ 実際、私の周りにも「今、歯冠修復をメインでやっているがいずれ義歯もやってみたい」また、それとは反対に「今、義歯をメインでやっているがいずれ歯冠修復もやってみたい」と、思っている歯科技工士は少なくありません。

私の場合は卒業後5年間、歯冠修復をメインの仕事として行っておりました。5年間仕事をしていて少ない数ではありますが、フルマウスの臨床にも携わせていただきました。そこで気がついたことは義歯の排列を理解していないと、フルマウスは難しいということでした。その後、義歯の仕事もやり始めましたが、実際に義歯をやり始めて気がついたことはたくさんあります。特にCrが鉤歯になるケースではどう設計すればいいのかなど、義歯をやり始めたことで、より理解を深めることができたと思います。

講演では、私を感じて来たようなことや、悩んできたようなこと等を、今、感じている皆さんに、私自身はどのような勉強をしてきたのか？ どのようなセミナーに参加して何を学んだのか？ 卒業〇年でどのような臨床に携わっていたか？ 等、臨床例も交えながらお話しさせていただきますと思います。

- 【略 歴】** 2006年 東邦歯科医療専門学校 卒業
2006年 ムサンデンタルアート 入社
2009年 歯科技工士生涯研修1期修了
2012年 独立
<所 属>
D-Technicians 会員、日本口腔インプラント学会 会員



今田 裕也 ここまでの歯科技工とこれからの歯科技工

歯科技工士として仕事を始め8年になりますが、当時と比べ歯科技工士の従事者が年々減少傾向にあり、早期に離職する人が7割を超えているという現状は、非常に寂しく思います。それとは逆に、団塊の世代が退職する年齢を迎え、今後益々歯科医療が必要となってくることは確かです。現在、歯科技工の機械化など、これまでの技工では無い、新しい技術の習得は欠かせないものとなっていますが、歯科技工士として患者さん1人1人にあった補綴物を提供するという目的は変わりません。今回は、私自身の日常行っている仕事から、これからの臨床で活かせること、今後必要になってくるであろうことを少しでもお話し、歯科技工の面白さ、重要さを再認識していただける時間にできればと思います。

- 【略 歴】** <出身校>
2005年 愛歯歯科技工専門学校 卒業
<勤務先>
(有)協和デンタル・ラボラトリー 入社
<所 属>
日本口腔インプラント学会、W-CLICK、JDA、東京都技工士会



中村 悠介 口腔内に調和し作業効率の良い ハイブリッドレジンインレー製作法

ハイブリッドレジンを用いた修復物、特にインレー、アンレー製作は金属を鋳造する方法と違い、築盛・研磨で完成させることができ作業工程が比較的少ないので、短縮した時間を他の技工作業に充てることができると思っております。しかしながら、ハイブリッドレジンには自費診療であり、自費診療に優先されるポイントは作業効率ではなく、やはり修復物として患者や歯科医師の要望も満たすことで、術者は要望と効率、双方を考えて作業を行わなければならないと考えております。色調においても、ただ白いだけでは口腔内に調和せず、残存歯質との関わりを考慮する必要があります。私自身も日々の臨床技工においてハイブリッドレジンを用いたインレー製作ではシェードテイキングをする機会は非常に少なく、また歯科医師が口腔内写真をラボサイドへ送ることも稀だと感じております。そこで残存歯質に調和させかつ効率をあげるために、実際、どのように製作しているのか、術式・使用材料を含め臨床例を通して発表させていただきます。何か一つでも製作の際に参考になることがあれば幸いです。

- 【略 歴】** 2002年 日本大学歯学部付属歯科技工専門学校卒業
2003年 マスターセラミストスクール デイコース修了
有限会社グランツテクニカ入社
2011年 医療法人社団幸友会中野デンタルクリニック勤務

